

相談活動レポート(2007)

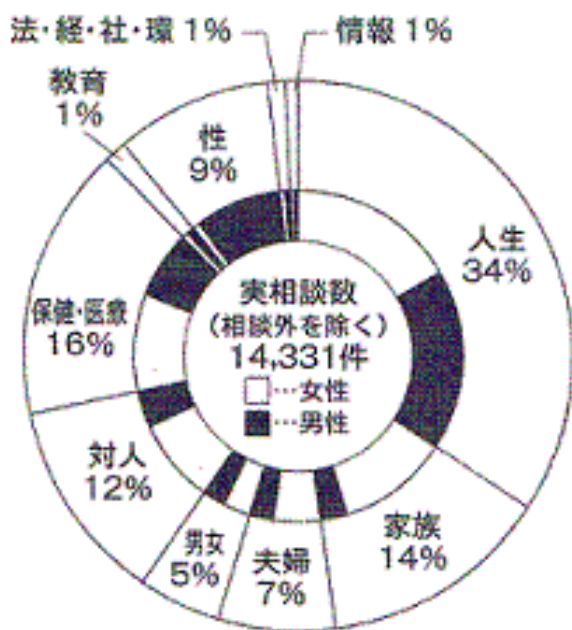
■電話相談の状況

実際に相談を受けた件数	14,331件	1日平均39.3件
相談ではない通話も入れると	16,165件	1日平均44.3件
無言で切れた電話を含めると	20,235件	1日平均55.4件

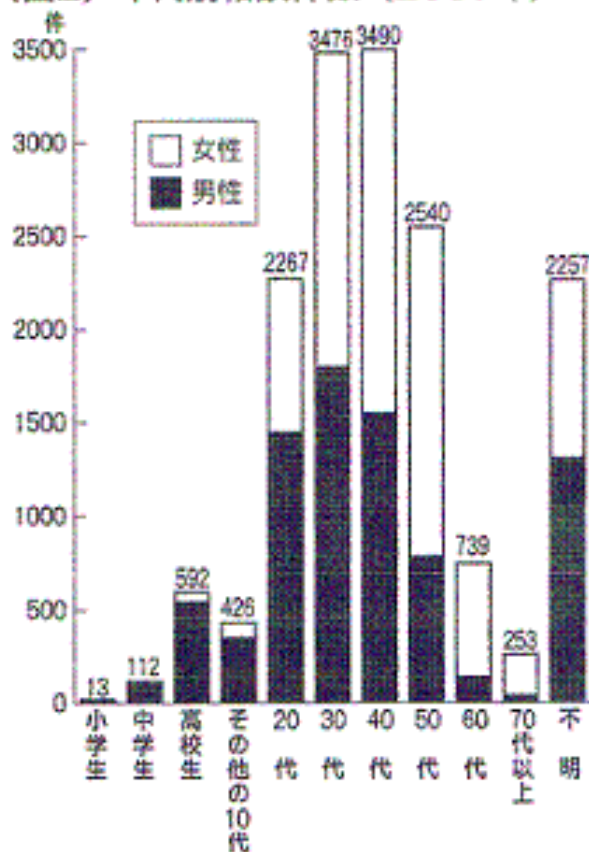
2007年の実相談数は、14,331件(男性6,439件、女性7,892件)であった。相談員の減少、1件当りの通話時間の増加などのため、昨年より568件少なくなっている。

(図1)内容別・性別受信状況は昨年と比較しても大きな変化はみられない。(図2)年代別相談件数では昨年より、20代が146人、30代が196人、50代が180人と大幅に増加している。

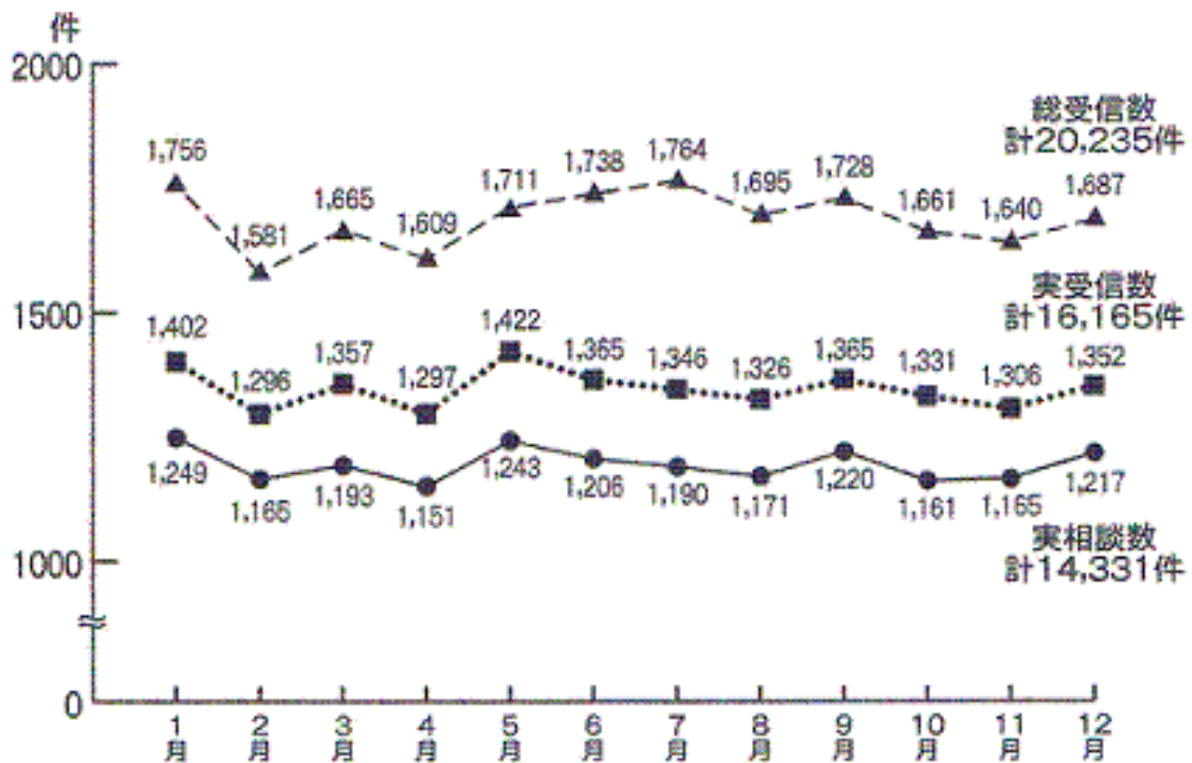
(図1) 内容別・性別受信状況 (2007年)



(図2) 年代別相談件数 (2007年)



(図3) 月別受信件数 (2007年)



(図3) 月別受信件数の総受信数と実受信数・実相談数の違いは、せっかく繋がっても無応答の人が20%を占めているからである。初めての人や、ためらいながらも、かけている様子がうかがえる。

(表1・表2) 自殺志向件数は、女性は昨年と同じだが男性は53件増加している。うち、40代の男性からの件数は37件増えている。

死からはまぬがれたものの、ずっと病と共に時を重ねて生きている人や、自殺未遂の人を支える家族も痛みを伴い、疲れ果ててかけてくる。1回の通話がやすらぎとなり、生きる意欲を呼び起こしている。

独居の高齢の方々の中には毎月10日に実施されている通話料無料のフリーダイヤルを心待ちにして、毎回かけてくる人もあって、繋がりを実感している。

20代の相談者に、心の病や支援機関についてあまり知られていない場合も多く、問い合わせがあれば、相談機関などを紹介している。

自殺前に相談する相手として、親・友人・医師・専門家に次いで、いのちの電話が利用されているという報告もある。電話での、見守りならぬ聴き守りの継続が、弱った心の再生を支援している。

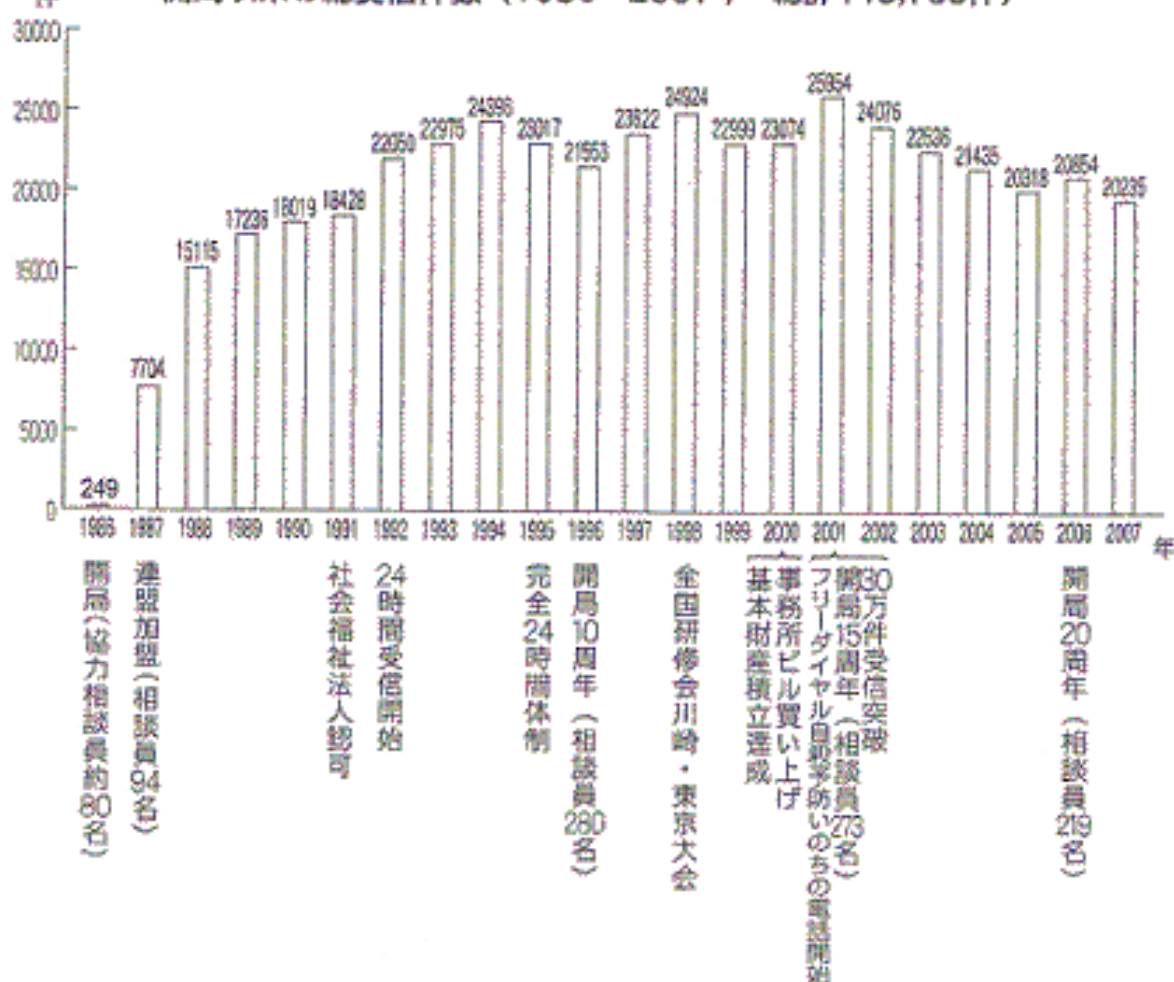
(表1) 内容別自殺志向件数 (2007年)

内 容	男性	女性	計
人 生	330	316	646
家 族	29	89	118
夫 婦	36	40	76
男 女	10	31	41
対 人	10	29	39
保健・医療	108	207	315
教 育	7	6	13
性	11	5	16
法・経・社・環	6	2	8
情 報	3	1	4
そ の 他	14	0	14
計	564	726	1290

(表2) 年代別自殺志向件数 (2007年)

年 代	男性	女性	計
小 学 生	0	1	1
中 学 生	9	0	9
高 校 生	12	5	17
その他の10代	5	12	17
20 代	74	126	200
30 代	154	224	378
40 代	183	170	353
50 代	46	74	120
60 代	13	25	38
70 代 以 上	6	12	18
不 明	62	77	139
計	564	726	1290

開局以来の総受信件数 (1986~2007年・総計440,769件)



■フリーダイヤル自殺予防のちの電話

厚生労働省自殺防止事業補助金を受け、日本いのちの電話連盟が取り組んでいる事業も7年目になり、2007年度も①自殺防止ネットワーク構築②相談員研修活動等推進③自殺防止相談窓口の普及啓発を三本柱として実施した。

前年度までの12月初めの1週間連続実施から9月10日の自殺予防デーを開始日に、月1回の実施となった。自殺予防に特化したダイヤル常設に向けての一步を踏みだしたことになる。

川崎いのちの電話では、補助事業推進委員会のメンバーとして連盟の事業実施に協力するとともに自殺防止相談窓口の普及啓発事業に取り組んだ。

●公開講座

日時	2008年2月15日(金) 18:30~20:30
会場	川崎市総合自治会館ホール
テーマ	「いのちみつめて ~子どもたちに教えられたこと~
講師	細谷 亮太 氏 (聖路加国際病院副院長・小児総合医療センター長)

●フリーダイヤル自殺予防いのちの電話の実施

(9月より3月まで毎月10日8:00~11日8:00)

相談員数が減少しているなか、特別シフトをどのような形で組むかを検討し、相談員委員会、研修担当者会、事務局が、協力して取り組みを進めた。24時間体制で128名の相談員が参加。昨年より多くの相談件数となり、そのうち自殺志向の相談は、実受信数の30.5%にのぼった。

受信件数

	日本いのちの電話 連盟48センター	川崎いのちの電話
実受信数	17,154件	325件
うち自殺志向	5,753件	99件)

受信体制強化プロジェクト

24時間体制のさらなる充実をめざし9名のスタッフが電話相談の質・量ともに充実させるべく、11月26日から4回の会合を持った。現状の把握と取り組みについて、話し合いやアンケート調査など実施。今後に向けて、どのような体制が望ましいか検討を続けている。

資金対策プロジェクト

厳しい状況になっている資金面を強化するため、10名のスタッフで11月10日より4回の会合を持った。

後援会組織が再発足し活動できるよう、4月23日に1回目の準備会が開催され、賛助会員を拡大すべく準備中である。

OB会

支える人々の交流の輪を広げることを目的として、相談員OB会が発足した。毎月第4金曜日の午後、センターの会議室をOB談話室として開放している。OBの積極的な参加が期待されている。